

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570200784
法人名	社会福祉法人 常緑会
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地	都城市豊満町2642番地1 (電話)0986-45-7010

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年7月30日

【情報提供票より】(平成19年 7月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~35,000 円	その他の経費(月額)	光熱費6,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(7月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤元病院(神経系)藤元早鈴病院(内科・外科系)大悟病院(精神科系)藤元早鈴病院(外科)
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体系列施設の敷地内にホームはあり、自然豊かな環境の中、利用者のはのびやかな表情をされている。「地域の支援や家族とのふれあいの機会を持ち、生活圏を広げ、楽しみが増えるように」との理念を掲げ、地域との関わりを重視している。系列施設の職員との連携も取られている。栄養士の献立をホームで調理し、利用者と職員が同じ卓を囲んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の3か月毎の見直し、理念の掲示、洗剤類の安全保管等の改善課題を運営者、ホーム長、職員一体となって共有し、改善に取り組み、全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を家族やホーム視察者にも開示している。今回もホーム長及び職員は外部評価の意義を理解し、サービスの実施状況を点検し、今後さらに改善に向け取り組んでいきたいと、各項目に具体的な内容を掲げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回開催し、メンバーに利用者も参加している。回を重ねるにつれ、運営推進会議がサービスの具体化推進に貴重な会であると、ホーム長や職員は効果を実感されている。ホームの理解推進のため地域へホーム便りを発信でき、また母体系列施設からスタッフや送迎車の体制が整い、今年初めて利用者が六月灯(夜)へ行き楽しむことが出来るなどの取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の家族との面談、手紙、電話など家族等からの苦情・相談をホーム長が窓口になって受け対応している。家族等へ金銭管理の報告も行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや、文化祭に参加・出品し地域との関わりを広げている。踊りのボランティアを受け入れ、ホーム内で踊りの練習をし、母の日には利用者も共に踊った。災害時に対して消防署や警察、地域との連携を強めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく生き生き暮らし続ける時間を共有する等の介護理念に加えて、「より一層地域との関わりを強め推進する」地域密着型サービスの理念を新入させ、ホーム内にも掲示し、又ホーム便りに掲載して地域に発信している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ホーム長と職員は理念を唱和して、意識し日々のサービスを行う中で、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに参加したり、地域の文化祭に出品し、見学している。地域の方が畑作りや、芋の収穫作業に支援している。地区民と踊りの練習をし、母の日には利用者と共に踊るなど交流に努めている。食材を地元業者からホームへ直接納入してもらい、ホームの雰囲気を感じ取ってもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長及び職員は話し合いながら自己評価に取り組み、外部評価も共有し改善に取り組んでいる。外部評価結果をホーム内に提示し、運営推進会議でも報告している。母体系列施設の研修生がホーム視察時に読んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーに利用者も参加して隔月毎に開催している。今年初めて母体系列施設からスタッフや送迎車の協力が得られ、利用者が六月灯(夜)へ行き楽しむことができ、また新たな物干し台の設置、地域へホーム便りの発信など実現することができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県や市及び社会福祉協議会の事業説明会や研修会に出席している。これらの機関への交渉等は母体系列施設が窓口のため、ホームから独自に直接関わることが少ないので、今後は直接交流の機会を増やしたい方針である。	○	ホームが直接、市町村との関わりを持ち連携を作ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時やホーム便り、手紙・電話等で利用者の日常の様子、職員の異動等定期的及び個々に伝え、又、金銭管理の報告では家族の承認、記名・押印を頂いている。母体系列施設主催の家族の集い(年3回)に家族も参加している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの苦情・相談窓口担当者としてホーム長が、又、これらの受け箱も設置している。さらに運営推進会議に家族の参加もあり、相談等の場は設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は母体系列施設とホーム間が主であり、利用者にとっては施設での馴染みもあり、転出職員によるダメージは少ない。異動時は新職員と利用者のふれあいの場を多くして早く馴染み合えるように配慮されている。家族にはホーム便りで職員の交代を伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講後は、法人内職員へ報告し共有している。研修を受けた職員は報告することで、受講内容の実践に責任感が強まり、スキルアップになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加し交流の機会をもっている。又、母体系列施設が研修受け入れ施設のため、県内研修生達との交流が図られている。		今後はグループホーム同志の相互訪問交流(職員及び利用者)の実現を検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の希望があると、家族のみ又はご本人・ワーカー等がホームを見学される時点から安心感を抱けるよう、声かけやふれあいを多くしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との食後の談話や日常の中で、彼岸だんごの作り方や着物の帯扱い、七夕づくりなどを教えてもらったり、又、畑づくり、料理、社会のあり方等、人生の先輩として共に学び支え合う関係として、謙虚な姿勢で関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望の利用者とミニドライブをしたり、外出時お化粧を楽しまれる利用者や、外食での注文など、なるべく利用者の意向を日々の関わりの中で把握しながら支援している。意向の把握が困難な時は、家族等の協力を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時の要望や意見を入れて、利用者本位の介護計画作成に努めているが、遠方の家族には職員が作った計画書を送付して、理解同意を得るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々介護計画に即したケアがなされている。現在はほとんどが安定した利用者であるが、協力医療機関の医師や看護師とも連携しながら、毎月介護計画の項目毎の点検を行い、利用者の状態変化を記録するようにしている。		今後も月に1回程度、新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認し、計画の見直しをして、さらにケアの充実に活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が得意とする梅やらっきょうを漬けられるよう準備をしたり、畑をつくる利用者や炊事を要望する利用者など、利用者個々が安心していきいきと、日常生活を維持出来るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医師に適切に受療できるよう支援している。又、緊急時には利用者や家族の同意を得られたホームの協力医療機関と連携し対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム利用契約時に説明し、利用者や家族の承諾は得ており、希望があれば対応していく方針である。が、現時点では全職員及び関係者間において徹底した具体的な方針の共有等未整備の段階である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者や家族等への言葉かけにおいて、全職員は常に利用者個々の個性を尊重し、配慮している。記録台帳等の保管にも注意している。居室の名札も利用者や家族の意向に沿って、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑作りや居室で過ごすなど、利用者一人ひとりがその日をその人らしく過ごせるよう、利用者のペースを大切にしながら支援している。利用者に何かしてもらったら、ありがとうと感謝を必ず伝え、利用者自身が何か役にたっているとの気持ちを失わないような関わり方もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立をホームで調理している。利用者も味付け・盛り付けをし、職員はさりげなく介助しながら、利用者と同じ卓で同じものを語らいながら食べている。食べ終わった食器をそれぞれが流し台へ運び、食後の談話があり、なごやかな雰囲気である。		利用者が献立を立てる楽しみも支援してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるが、利用者の意向に添い、毎日入浴もできる。利用者それぞれが入浴を楽しめるよう試行錯誤で、現在は一人ずつ入浴している。入浴を拒否した利用者が、30分かけて入浴を楽しむなど、その人に応じたペースも大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑つくりをしたり、カレンダー作り、剪定など利用者の生活歴、自主性を尊重したそれぞれの日課となるよう支援している。利用者全員で一斉に行う行事を多くすると、生活空間が施設傾向となるので避けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出はないが、利用者の希望を入れた月1回のミニドライブや外食などに出かけている。ドライブの行き先、外食のメニュー選びなど楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を理解し、玄関は常に開錠している。受診の支援時等手薄なとき、止むを得ず一時的に鍵をかけることもあるが、早めに開錠するよう努めている。万一敷地外に出られた時、地域からの通報が得られるようになっている。	○	さらに工夫をして鍵をかけないケアの取り組みをすすめてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体系列施設で年2回消防署の協力での避難訓練があり、利用者と共に避難実践している。119番通報装置も赤色で分かりやすく設置されている。公民館区内への地域だより発信で地域との関わりづくりがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要栄養量を確保するために母体系列施設の栄養士の協力による献立である。個別には食材を小型に切ったり、軽くとろみをつけたりしている。水分摂取状況をチェック表に記入して、一日の必要量が確保されるようにしている。		さらに嚥下機能の低下防止の舌筋体操などの取り組みも検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自然な音、光の共用空間でゆったりされている。調理している職員の真向かいにある長いすに腰掛けた利用者が、調理に合わせながら職員と語り合われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口はすべり扉で、部屋には洗面台があり、さらに掃き出し戸になっており、災害時容易に避難できる構造になっている。馴染みのものが持ち込まれた居室である。中には飾り付けない居室もあり、利用者それぞれの個性が尊重されている。		